

幕別 の稲作 その歴史

特集「この道一筋～
幕別の稲作を訪ねて」より



幕別における稲作は明治28年に依田勉三が途別で水稻の試験栽培をしたことから始まる。このときは思ったような良い結果は得られなかったが、明治33年に7反歩の水田作りに成功。1反あたり1俵半の収穫をあげた。

この依田勉三の試作から二年遅れて高橋善八、山口源治らが途別農場の南側で造田し、成功を収めた。

このことで途別地区の稲作熱は高まり、作付がどんどん増えて行った。

明治32年、西猿別でも水田の造成が始まるが本格的に作付が始まったのは大正11年以降。

その後水田の区画整理や、灌漑・排水設備などの工事を経て昭和42年に幕別の稲作はピークを迎えた。

町民文芸

まぐべつ

第5号・1989